

有限会社小国和紙生産組合

業種	製造業	事業所所在地	新潟県長岡市	資本金	4,000千円
				従業員数	5名

				被承継者（左）	
片桐 三郎		68歳		※承継時	
				承継者（右）	
今井 宏明		43歳		※承継時	
事業承継を行った時期			承継者と被承継者の関係		
2015年		10月		その他の親族（義理の息子）	
承継前の主たる事業の内容			承継前の主たる事業の課題		
酒ラベルと着物札紙の生産と紙漉き体験の受け入れ			・既存商品・サービスの売上高の拡大 主力商品の受注の低下による売上不振		

事業承継を実行するまで			
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備	
承継実行の	1 年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	
前代表が65歳を越え、同時経営している工務店についても縮小を検討始めたため、引き継ぎを行うことにした。	国指定文化財である「小国紙」の製造の継承、存続について。固定資産税負担の大きかった事務所、店舗の売却の遂行。	主力商品受注の低下による売上低迷が続く中で承継を、前代表の年齢的な問題などでせざるを得ないこと。	
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安	
	もともと承継者が工房長として、和紙製造の実務を行っていたため、特にないが事務所、店舗を手放し、工房へ移したため住所変更などの周知を行った。	承継が完了しても、それにより売上が伸びるプランはなく、現状の維持にすら苦勞することは見えていた。	

これに一番苦勞した！

主力商品の売上が低迷する中で、事業を継承。その後、2016年あたりから従業員が続けて更年期やアレルギーなどで辞めてしまい、人手不足の中でのスタート。生産力も低下する中、仕事分散しないよう、他の場所にあった事務所、店舗を工房へまとめる。そのため、販売拠点がなくなり、他所へ販売場所を求めようになった。

事業承継について相談したこと		
相談機関の業種	承継に関して受けたサポート内容	
商工会・商工会議所	承継者が紙漉きの工房内での現場仕事を引き続き行ってのに加えて、社長としての責務について漠然としていた承継に関する不安要素を洗い出し、相談を受けていただいた。町内などで似たような承継事例があり、話をきいた。その他、承継に関する事務手続き等多方面にご指導をいただいた。	
いつから相談？		
承継実行の		1 年前
相談のきっかけ		
事業承継のために承継者または被承継者自身がアプローチ		

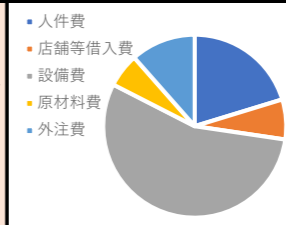
新たな取組の標題

体験型インバウンドに向けた小国和紙クラフト店舗の事業展開

新たな取組の内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
----------	--------------------

- 事業承継により事務所、店舗があった建物を手放したことで販売拠点を無くしたため、老舗だんご店の一部で週末限定で販売を行っていたが和紙小物の売れ行きは伸びなかった。
- そんな中、お客様から「和紙を見るのは好きだし、欲しいけど、使い道がよくわからない。」という声があった。
- そこで、和紙を購入したら加工して何かしら使い道のある品物にして提供するという新たなシステムを作ることで、これから増加するインバウンドのお客様にも対応できるような体験型サービスの提供を考えた。
- 地元デザイナー、型版製作会社の助力を得て「こあんどん」（小型照明）を開発、販売。店舗販売だけでなく、長岡市のイベントにも出店するなどして好評である。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳		
これまで酒ラベルを手漉き和紙で生産し、酒のごだわりや、酒造りの原点回帰のイメージを伝える顔(ラベル)としての役割を果たしてきたが、今回の「こあんどん」をはじめとした和紙を選ぶ→好きなものに成形する→すぐ持ち帰られる、というスタイルの商品は、モノそのものより、コト(作った思い出)を持ち帰ることができるという商品であり、長岡へ訪れた方々への、その地ならではの思い出になる。米どころである長岡は、酒や米菓など食の観光になりがちだが、手軽な体験型の観光という部分を担っていこうと考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ● 人件費 ● 店舗等借入費 ● 設備費 ● 原材料費 ● 外注費 		
	<table border="1"> <tr> <th>経費の主な使い道</th> </tr> <tr> <td>人件費（店舗運営スタッフ人件費） 店舗等借入費（実験店舗借入費） 設備費（販売銃器、紙漉き道具等購入費） 原材料費 外注費（デザイン依頼、版型製作費）</td> </tr> </table>	経費の主な使い道	人件費（店舗運営スタッフ人件費） 店舗等借入費（実験店舗借入費） 設備費（販売銃器、紙漉き道具等購入費） 原材料費 外注費（デザイン依頼、版型製作費）
経費の主な使い道			
人件費（店舗運営スタッフ人件費） 店舗等借入費（実験店舗借入費） 設備費（販売銃器、紙漉き道具等購入費） 原材料費 外注費（デザイン依頼、版型製作費）			

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

小国町商工会より、補助金申請の内容にご理解をいただき、確認書を作成していただいた。

今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	現在は、「こあんどん」小型照明のみだが、これをステーションaryやケースなど様々なものが選択し成形できるようなシステムにし、手漉き和紙を楽しむきっかけにしたい。長岡は、今後大学も増えて他県から学生が集まる街になる。若い人が手漉き和紙を手取る場にした。また、作ってその場で持ち帰られるという手軽さと文化財にもなっている日本文化ということで外国人にもPR力があると考えている。ただし、現在の自社の工房内の店舗は狭くて多くの観光客を招き入れるのは難しいため、出張して出店しワークショップが行えるよう準備中である。今後、いくつかの観光拠点と契約し、旅行代理店にも働きかけていく予定である。
売上高	15 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
もともと工務店経営にかりきりで、現場は工房長である承継者に任せきりであったが、主力商品の売上低下の中、承継すること大変不安だった。そのような中でも、出来得る最大限の努力をし、新しい仕事をつかみとって行こうとする。次の世代に期待が持てるようになった。今回の国の補助金申請に関しても、内容を理解し協力者と一緒に申請、実行、報告を終えた。今後もスタッフ一同と共に頑張っていきたい。	厳しい時代だが B to B でまわっていた経営を残すところは残し、変革すべきところは検討を重ね、新しい仕事を獲得していきたい。しかし、会社設立の目的、支持して下さる方々の願いは雪国文化である小国紙の継承である。そのことは今後もゆるぎないものとし、自分たちの商品の根幹として大切にしていきたいと考える。